

令和2年度 被災者見守り・相談支援事業に係る市町村支援業務（岡山県委託事業）

[点を支える面をつくる～地域を基盤とした多機関協働による総合相談・生活支援体制整備]

被災者見守り・相談支援ネットワーク [第1回 会議] 開催要項 恒久住宅移行期の見守り・相談支援における 応援・受援体制の構築に向けた対話

1. 開催趣旨

平成30年7月豪雨で被災された方々が、それぞれの環境の中で安心した日常生活を営むことができるよう、倉敷市・総社市において、倉敷市真備支え合いセンター・総社市復興支援センター(*)を平成30年10月に設置し、孤立防止等のための見守りや、日常生活上の相談支援・生活支援・住民同士の交流機会の提供等を実施しています。また、岡山県では市町村が設置したセンターの後方支援をする岡山県くらし復興サポートセンターを設置しています。

現在、発災から2年が経過し、**県内の応急仮設（建設型・借上型）住宅入居戸数はピーク時の3,189戸（H30.11月末時点）から1,596戸（R2.3月末時点）となり恒久住宅での生活に移行してきている**ことがうかがえます。この時期には、地域での見守り・安否確認体制の再構築、生活環境の変化による心身の負担への対応も必要となります。一方、収入減少、健康悪化、家族内での再建意向の不一致、保証人不在、適当な物件の不足…等々、さまざまな理由により恒久住宅の確保が思うように進まない世帯もいらっしゃいます。

このように、**恒久住宅への移行期における支援には広範なニーズへの対応が求められ、①多様な担い手や複数機関との連携・協働、②個と地域の一体的支援、③予防的アプローチ、が支援課題**となってきます。これらの課題解決には、**フォーマル・インフォーマルの社会資源との協働が必要**であり、**関係機関・団体間同士の合意形成を図りながら、被災者のニーズに的確に対応できる体制づくりが不可欠**となります。

そこで、被災された方が県内どこに住んでいても必要とする支援を受けることができる地域を基盤とした多機関協働による総合相談・生活支援体制の整備を目的として、関係機関等が被災者のニーズや支援活動の全体像を把握し、連携のとれた支援活動を展開するための話し合いの場を設けることといたしました。

*総社市復興支援センターは令和2年4月から「総社市被災者寄り添い室」に統合、室による事業実施となりました。

2. 開催日時 令和2年 **7月3日（金） 13:00～16:30**（受付 12:30）

3. 開催場所 国民宿舎 サンロード吉備路 コンベンションホール雪舟
（岡山県総社市三須 825-1 TEL 0866-90-0550）

4. 参加団体

(一社) 岡山県医療ソーシャルワーカー協会、(特非) 岡山県介護支援専門員協会、岡山県居住支援協議会、(一社) 岡山県建築士会、(公社) 岡山県社会福祉士会、岡山県精神保健福祉士協会、岡山県精神保健福祉センター おかやまこころのケア相談室、岡山弁護士会、(特非) おかやま入居支援センター、(一社) お互いさま・まびらボ、親子支援・災害看護支援 NPO、グリーンコープ生活協同組合おかやま、生活協同組合おかやまコープ、日本赤十字社 岡山県支部、(特非) 日本ファイナンシャルプランナーズ協会、(特非) ピースウィンズ・ジャパン

5. 開催日程

時間	内容	担当等
12:30	受付	
13:00	【はじめに：目線を合わせる】 1. 開会のあいさつ 2. 問題認識と設定課題を共有する 3. 会議の目的・目標・進め方・役割を共有する 4. 互いを知り合う～参加団体の被災者・被災地支援活動を知る	岡山県くらし復興サポートセンター 所長 木村真悟 岡山県くらし復興サポートセンター コーディネーター 椿原恵
13:35	【行政説明：岡山県における被災者支援の概要】 1. 応急仮設住宅入居状況及び住まいの再建状況確認調査 2. 生活再建に関する支援金、助成金制度 3. 被災者見守り・相談支援事業の概要	岡山県 保健福祉部 被災者生活支援室 副参事 岡崎加住子
13:50	【基調報告：倉敷市における被災者・被災地支援の現況と課題】 1. 専門職等との連携による支援の実際 ～被災直後の活動から被災者見守り・相談支援活動へ 2. 倉敷市真備支え合いセンターによる支援の実際 ～恒久住宅移行期における支援で大切にしていること 3. 自らの生活を整えていく途上である被災者という「人」と、被災者の生活が営まれる場所での「地域」にかかわる支援の実際 ～恒久住宅移行期における支援で一層の強化が求められることは？	倉敷市 被災者見守り支援室 主幹／保健師 原田恵 倉敷市真備支え合いセンター センター長 佐賀雅宏 岡山県建築士会倉敷支部 岡山県介護支援専門員協会
15:00	休憩	
15:15	【対話：恒久住宅移行期の被災者の現況と課題～必要な支援とくらしを豊かにする関わりを考える】 1. 被災者の現況を共有する（ケース説明） 2. 状態像 2020 に照らして状況把握のための問いをたてる 3. 生活課題とニーズを明らかにする 4. 専門性を役立てられそうなかかわりを明らかにする 5. 課題やニーズの把握方法、必要な支援を届ける仕組みとは	倉敷市 被災者見守り支援室 倉敷市真備支え合いセンター 岡山県くらし復興サポートセンター コーディネーター 椿原恵
16:15	【おわりに：目線を合わせる】 1. 点を支える面をつくる～地域を基盤とした多機関協働による総合相談・生活支援体制 2. 閉会のあいさつ	岡山県くらし復興サポートセンター アドバイザー 山下弘彦氏 岡山県 保健福祉部 被災者生活支援室 室長 東寛
16:30	終了	

6. 主催・お問い合わせ

岡山県くらし復興サポートセンター（担当：椿原）

TEL：086-226-2830 FAX：086-225-6602 E-mail：kurashi@fukushiokayama.or.jp

岡山市北区南方2丁目13-1 きらめきプラザ3階 社会福祉法人 岡山県社会福祉協議会内